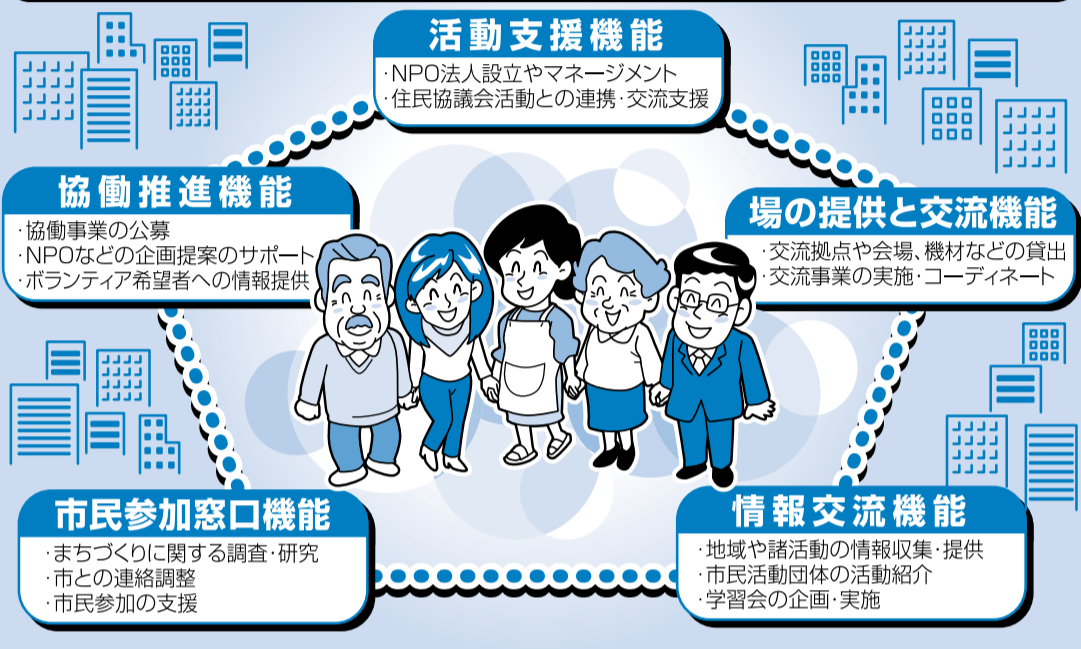


今号の紙面から

- 2 市税・国民健康保険税の未納者宅に市職員が訪問
- 3 井の頭コミュニティセンター分離施設説明会
- 4 市民相談に寄せられた「声」を紹介
- 5 三鷹市産業振興計画2010の概要新しい市民便利帳を発行
- 9 平成16年度保育園入園の一斉申込
- 10 東京都エイズ予防月間
- 11 平和カレンダーを配布

三鷹市広報番組  
**みる・みる・三鷹**  
武蔵野三鷹ケーブルテレビ5CH  
1日4回放送9:30/14:30/19:30/23:30  
●第178回(11月16日~12月6日放送)  
●「みたかファミリー・サポート・センター」活動紹介/丸池第2期ワークショップが開始  
三鷹市市政情報番組  
**おはよう!三鷹市です**  
FMむさしの78.2MHz  
月~金曜日10:20~25放送

「市民協働センター」に期待される機能イメージ



市民との協働の新しい架け橋  
「市民協働センター」が  
12月1日(月)オープン

市民活動や交流を支援するとともに、行政と市民との新しい「協働」のあり方を考える、協働によるまちづくりを推進する「市民協働センター」が12月1日(月)、いよいよオープンします。

市ではこれからの地域社会のあり方として、市民とともに新しいアイデアを生み出し、汗を流し、ともに事業を進める「協働のまちづくり」を進めています。市民協働センターは、こうしたまちづくりの拠点となる施設です。

この施設の特徴は、市民活動のサポート機能(活動支援・交流促進)はもとより、まちづくりに関する調査・研究など、まちづくりへの市民参加の窓口機能と、市民が提案する「新しい公共」の分野における協働の推進機能も基本的な機能として併せ持っていることです(イメージ図参照)。これまで行政が主に担ってきた公共の分野で市民、NPO・市民活動団体などが主体となり、市と協働で事業展開を目指します。

同センターは、その運営にあたって市民、NPO・市民活動団体などの参加による協働運営を目指しますが、当面は利用状況やニーズを把握しながら柔軟で試行的な運営からスタート

し、成果の検証・見直しを図るなかで体制を整備することとします。そのため、概ね3年間は市が運営し、公募市民も含めた準備委員会や企画運営委員会が運営体制や支援策などセンターの機能について具体的に調査・検討を進めながら段階的に事業を拡充し、協働運営に移行していきます。

■運営準備委員会のメンバーを募集

センターの運営組織や利用方法、事業計画などについて意見をいただき、運営のあり方について協働で検討する「運営準備委員会」(市民、NPO・市民活動団体、関係団体の推薦者など)25

自治基本条例の報告書が提出されました



西尾勝座長(国際基督教大学教授=中央)・西尾隆座長代行(同=右)から報告書が提出

11月5日、三鷹市の自治基本条例のあり方を検討していた「まちづくり研究所第2分科会」から、同分科会の報告書が市長に提出されました。

自治基本条例は、「自治体の憲法」として市政運営の基本理念や基本方針などを条例として定めるもので、第3

次基本計画では市民の提言などもふまえて自治基本条例の制定を掲げていました。この方針に基づき、昨年10月にまちづくり研究所に新たに第2分科会を設置し、自治基本条例の検討を進めてきました。

報告書の概要は、12月7日発行の「広報みたか」でお知らせします。また、報告書は市のホームページに掲載しているほか、市政資料室(市役所3階)で配布しています。図書館、市政窓口、各コミュニティセンターでも閲覧できます。なお、別にお取り寄せを希望する方は、企画経営室までご連絡ください。

↓企画経営室行政評価担当 ☎内線2150・2151

三鷹市長メールマガジンを届けます

市では、市長の考えたことや日々の行動を生かす声としてみなさんにお届けし、市政をより身近に、そして三鷹市に親しみをお持ちいただくために、メールマガジンを発行します。また、ご希望に応じて市の最新情報を同時にお届けします。

◆発行日 12月7日(月)創刊予定、毎月第1・3日曜日発行

◆申込方法 あらかじめメールアドレスをご用意していただき、三鷹市ホームページから登録してください。

※なお、携帯電話用のメールマガジンについても現在準備中です。くわしくは次号の広報みたかでお知らせします。

↓市長室 ☎内線2010



三つの里の秋まつり

三鷹市には各住民協議会から提案された「まちづくりプラン」から生まれた「三つの里」が生まれました。

大沢の里、牟礼の里、丸池の里では、今年も秋、それぞれの秋まつりがひらかれました。

10月19日には、「牟礼の里公園秋まつり」が開かれました。澄み切った秋空の下、芝生の上には家族連れや友人同士など、たくさん市民が集まって、ビンゴゲームや昔遊びをしたり、模擬店で安くおいしいものを味わったり、思い思いの秋を満喫していました。

その翌週26日には、「丸池わくわくまつり」が開かれ、参加者はスタンパラリーや「どじょうつかみ」、バルーンアートを楽しんだり、「三鷹産の「やきいも」」を味わったりしました。

11月3日には、「大沢の里秋まつり」が第七中学校の校庭で開かれました。第七中学校のプラスチックの演奏がすばらしく、地元野菜の販売も好評です。ミニ消防自動車やミニSLがちびっ子たちに人気です。私も、初めてちびっ子と一緒にミニSLに乗せていただきました。童心に返って、わくわくして一周しました。

それぞれの秋まつりは、市民の皆さんによる実行委員会が企画運営してくださっています。三つの里で、それぞれの創意工夫で、参加者が楽しめるメニューが揃っています。「まつり」は市民の出会いと、触れ合いと、地域や隣人への感謝の気持ちを生み出す三鷹の力の源泉だと改めて感じました。

三鷹市長 清原 慶子